法人広報誌

つどい

社会福祉法人 つどいの家
第 32 号
令和３年８月３１日
発 行 者
社会福祉法人　つどいの家
理　事　長　佐　藤　　清
〒984-0838　仙台市若林区
上飯田一丁目 17-58
TEL　022（781）1571
FAX　022（781）1573
https：//www.tsudoinoie.or.jp

♡令和２年度　ベストショット（笑顔）♡

釜房ダムまでドライブ
湖と青空！気分上々

羊毛フェルトで「アマビエ」作っちゃった。
コロナなんかに負けないぞ!!

いい天気
これからお散歩に行くよ
さあ、出発～

園芸センターでの一枚。
お花に負けない笑顔満開

いつものお散歩コースだけど
なんか楽しい～・・・

ご挨拶

～令和２年度の振り返り

理事長　佐藤　清

昨年度は、私自身、下郡山前理事長の後を受け理事長を拝命し、手探りの中で職員はじめ関係の皆様方に支えられながらの１年であり、つどいの家の運営においても、新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けた一年でした。

一方、社会に目を転じれば、公務員倫理、公文書取扱い、学術会議、選択的夫婦別姓、入管法、国民投票法、近隣諸国との関係等々、本来大いに議論されるべき問題が新型コロナの陰に追いやられ、それに輪をかけ（奇貨として？）「ご飯・・」や「やぎさん・・」など議論を回避する傾向も強まり、これで良いのだろうか、この先、日本社会はどうなるのだろうかといった危惧に近い思いを常に抱いていたような気がします。

この一年、全国一律休校要請に始まり、布マスクが配られ緊急事態宣言が全国に発出され、５月に解除されたのち、数次の感染拡大を経て東京には４度目の緊急事態宣言が発出される中でオリンピックが開催されることとなっています。オリンピックに対して従来抱いていたワクワクとした思いも失せつつありますが、くれぐれも医療の崩壊や救われるはずの命が救われないといった事態を招くことのないよう、私たち自身の行動を律することはもとより、為政者にはデータに基づく科学的な対応に誤りなきよう願うばかりです。

決算年度においては、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しつつ、利用者本人の意思や希望を注意深く把握しながら活動を展開することが求められ、地域に出て多くの人と触れ合い発信することは困難でしたし、プールや温泉、カラオケなどの楽しみの活動はおろか外出自体も制限せざるを得ないこともありました。こうした活動や日々の暮らしの制約は、利用者、職員、関係者に様々なストレスをもたらすとともに、外出支援をはじめ利用者の減少＝収入の減を招き、経営圧迫要因となりました。

通常業務以外の特記すべき取組みとして、まず、コロナ禍に対応するため、ＷＥＢを活用した会議、情報交換、対外発信の仕組みづくりを行いました。更なる習熟、改善を進め、新たな可能性をもたらしてくれるツールとして、より有効に活用していきたいと考えます。

また、法人や事業に対する寄付金について所得控除ではなく税額控除の認定を受けるなど寄付者、法人双方にとってメリットのある仕組みとすることができるよう、後援会員等関係の方々と共に学習、議論を重ね、実現に向け一定の見直しを行いました。

つどいの家が先駆的に取り組んできたレスパイト事業については、雇用環境や市税による負担の増大等を受けた市の見直し方針を受け、国費の入る法定事業であるショートステイや日中一時支援事業として、市独自の上乗せ補助を得ながら存続の方途を見出すことができましたが、利用実績の向上とそれを支える担い手確保が課題となっています。

その他グループホームやホームヘルプを含め様々な課題に今後も対応していく必要がありますが、それらすべてに共通するものとして人材の確保育成に継続的に取り組んでいくことが極めて重要と痛感しています。

振り返れば１０年前、東日本大震災の後、より良い復興のあり方とそれに要する費用と時間、両面のコストをどう考えるか、理想を追わず何よりも生業の早期の復活を最優先すべきでは、など悩ましいことはありつつも、福島第一原発の過酷事故以外はこれより悪くはならない、少しずつではあれ、前には向かっているなと思えたものですが、今の事態は、そこをはっきり見通すことができないように思えてなりません。このことが漠然とした不安感や閉塞感に繋がっているものと考えますが、つどいの家に関わる私たち一人一人が、必要不可欠な社会資源を支え担っているという自覚のもと、感染予防対策を徹底しながら、ときには、「あと一冬越せば」、「そのうち何とかなる」くらいの楽観的な心も持ち、利用者本人に徹底的に寄り添って慎重に事業を運営し、つどいの家の次なるステージに向け着実に歩みを進めていきたいと考えています。

令和２年度を振り返って

総務部

部長　佐藤 吉久

令和２年度を回顧すると、新型コロナウィルスに翻弄された１年の一言につきます。法人経営または事業所運営への影響のみならず、様々に生活様式の見直しが求められ、または行動制限がかかるなか、それぞれに「生きにくさ」や「暮らしづらさ」を感じ、日々を送られたのではないでしょうか。法人においても、利用者および職員等への感染防止を図るため、最大限に注意を払い、この一年、様々な措置を講じてきました。その結果、特に外出を伴う事業や活動においては利用者やそのご家族の皆さんには大変ご不便をおかけすることになったかと思います。また、法人創設以来、しょうがい者理解の促進を図るために、社会啓発活動や地域交流行事など様々な機会を通して人との交流を深め、コミュニケーション機会を創出してきました。これらの活動をやむなく中止又は規模縮小せざるを得ない状況となったのは残念なことですし、何より閉塞感や先の見えない不安感を長期的に抱えながら、モチベーションをいかに保ち続けることができるか、その難しさにも直面した一年であったように思います。コロナ禍にある現下にあって、目に見えない脅威にさらされた結果、他者に対する差別や偏見などが生じ、又は特定の職業に対する蔑視といった報道もこの一年絶えませんでした。こうした中で、しょうがいのある人をはじめ、社会的に弱い立場にある人たちの孤立や無縁化が進むことがないよう、多くの人たちと協働・共創していくことが益々重要となってきたと感じています。この混沌とする社会情勢下において、私たち法人がいかに振る舞い、社会的責任を果たしていくかが問われています。法人の持続可能性を高めながら、山積する課題に対し一つひとつ検証を重ね、解決に努めて参りますので、引き続き皆様にはご支援・ご協力をお願いいたします。

最後に「つどいの家」発足時より当法人の理事・評議員としてご尽力いただきました高橋治様が６月の評議員改選（任期満了）に伴い退任することとなりました。精神的支柱として、この法人を多年にわたり支えていただき、また温厚で親しみやすいお人柄もあって、前理事長とともに何度もご相談に伺ったことが懐かしくもあります。大変お世話になりました。そして、ありがとうございました。

＜総務部における令和２年度の主だった取組み＞

・中期経営計画 2020 の策定と職員周知
・仙台市障害者家族支援等推進事業（レスパイトサービス）の廃止に伴う後継事業への行政折衝（他法人連携）
・成年後見制度の推進に向け、利用者のご家族との勉強会の実施と行政機関との意見交換、要望など
・広く社会からの支援を得るための仕組みづくり、後援会・保護者会との連携や学びの機会の創出
・若手職員のアイディアや企画力を活かした職員の採用活動
・ウェブを活用した会議、研修会の充実と環境整備　等々

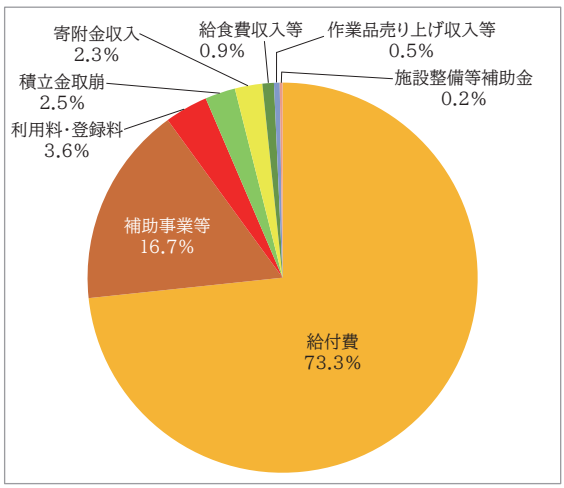
令和2年度つどいの家決算報告　～資金収支計算書より　決算報告

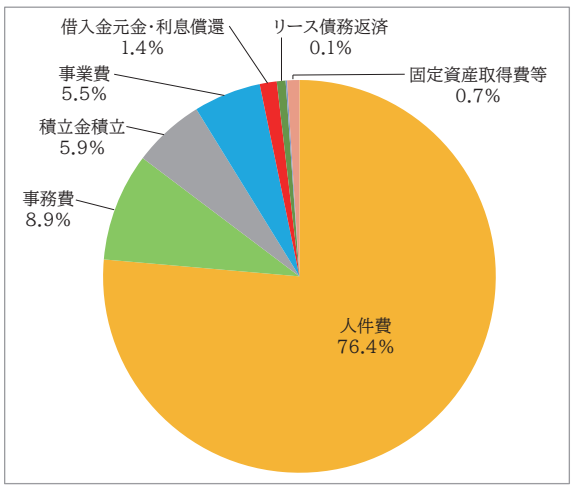
令和２年度の法人全体の総収入は 942,170 千円(前年度比 3.9%減)、総支出は 932,750 千円(前年度比 3.3%減)、収支差額は 9,420 千円の結果となり、この差額と前年度からの繰越金 238,519 千円を合わせ、次年度への繰越金は 247,939 千円となりました。

主な減額要因は、新型コロナウィルス感染拡大の外出自粛に伴い、移動支援をはじめとする地域生活支援事業の利用実績の減少と、それによる事業費の減少があげられます。また、人との交流機会が大幅に減少し、前年度に比べ寄附金収入が減少したということもありました。

コロナ禍において、法人の広報活動や地域交流をどう展開していくのかが今後の課題です。

総務課　阿部 幸生





日中活動支援事業部

部長　山口　収

令和２年度の日中活動支援事業部は、言わずもがな新型コロナウイルスの本格的な流行に伴って、大きな影響を受けた一年でした。年度当初はこの未知のウイルスの性質もわからない部分が多く、影響は限定的だろうという楽観的な見方も一部に見られましたが、相手の正体がわかってくるにしたがって、本当に厄介な存在であることが見えてきました。すなわち、私たちがこれまでずっと大切にしてきた『人と人とのつながり』を基本とした活動を感染拡大の絶好の機会としており、地域の人との行ったり来たりの交流の機会である各種イベントをことごとく中止させ、特に知的障害のある方たちに理解のしにくい理不尽な自粛・活動制限を長期にわたって強いる。それがこのウイルスの正体でした。利用者さんも職員も、とてもストレスフルな１年間を過ごしましたし、その状況は今でもなお続いているのです。

しかし、そんな中でも日中活動の各事業所は、停滞することなく活動を継続してきました。特に全国一律に緊急事態宣言が発出された４月には、多くの法人で休館や交替通所を余儀なくされる中、つどいの家各事業所においては感染拡大防止に細心の注意を払いながら、日中活動の場を保障し続けてきました。このような異常ともいえる状況の中においても、利用者さんの日中が少しでも豊かになるように、職員は心を砕いて工夫を凝らして、様々な活動を展開してきました。『福祉講座』では、利用者さんが講師になって、地域の中学生にしょうがいのある人や高齢者の理解を深める講座を行いました。また、各大学においては従来対面で行っていた『ゲストスピーカー』をオンラインで行い、実習機会の減ってしまった学生さんたちに、利用者さんの生活の様子や生の声をお伝えすることができました。このほか、接触機会を減らすために導入した web 会議システムを活用して、法人内事業所間にとどまらず、以前から交流のあった横浜や兵庫など遠方の事業所との『web 交流会』など、コロナ禍ならではの取り組みも行うことができました。さらに、食品ロスと貧困対策としてつどいの家・コペルで進めていたフードボックスの取り組みから派生して、新たに『フードドライブ』を全事業所で活動に位置付けることができ、不自由な活動環境の中でも新しい取り組みが生まれてきています。

コロナウイルスの状況はこれからも一進一退を繰り返すのでしょう。以前とまったく同じような日常を取り戻すことは、あるいは難しいのかもしれません。それでもこの１年をそうしてきたように、利用者さんの豊かな日中活動を求めて、職員たちは工夫したり柔軟に発想していくことが求められるのだと思います。この１年の経験の中から私たちは『つながろうと思えばどこででもつながれる』ということを学びました。対面での直接的なやり取りは我慢しなければいけないかもしれませんが、工夫次第でいろいろなつながり方ができます。世界中を席巻したウイルスも、どうやら人と人とのつながりまでは断ち切ることができないとみえるのです。

地域生活支援事業部

部長　飯田　克也

地域生活支援事業部は 3 箇所の地域生活サポートセンター（ぴぼっと支倉 / ピボット若林 / ぴぼっと南光台）とグループホーム（若林区 3 箇所 / 泉区 2 箇所）があります。以下に令和 2 年度の各事業の取り組みの振り返りをします。

仙台市障害者家族支援等推進事業

障害者家族支援等推進事業（レスパイト事業）は、平成 10 年に仙台市の補助事業として制度化され実施してきましたが、仙台市の方針により 10 月に日中一時支援、短期入所へ移行しました。移行にあたっては、個別に対応できる等レスパイト事業の長所を継続するため、仙台市障害者家族支援等推進事業連絡協議会と連携し、諸加算の創設を要望しました。その結果、送迎加算、1 対 1 支援加算等の加算が創設されました。移行前は法人内 3 ケ所の事業所で実施していましたが、移行後の拠点事業所は主にすてっぷ・はうす（ぴぼっと南光台）、だいち（ぴぼっと支倉）となりました。令和元年度 3 月末以降、新型コロナウイルスの影響による利用のキャンセルや利用控えが多くあり、今年度も新型コロナウイルスの影響等による利用控えが続きました。

居宅介護事業

ヘルプ事業は新型コロナウイルスの影響が非常に大きくみられました。令和元年度３月初めから中旬まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動支援のサービス提供を全て中止としました。今年度に至っても時間、場所に制限を設けサービス提供を行いました。入浴介護等の居宅介護は、身体介護のため新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分注意しながら行っています。感染拡大防止が最優先となりますので、利用の減少は致し方ありませんが、制限解除までは、まだまだ時間がかかることが予想されますので、事業そのものの安定的な運営が危惧されます。新型コロナウイルスのワクチン接種の普及が進むことを期待します。

指定相談・委託相談支援事業

年々、相談内容が多様化し、委託相談と計画相

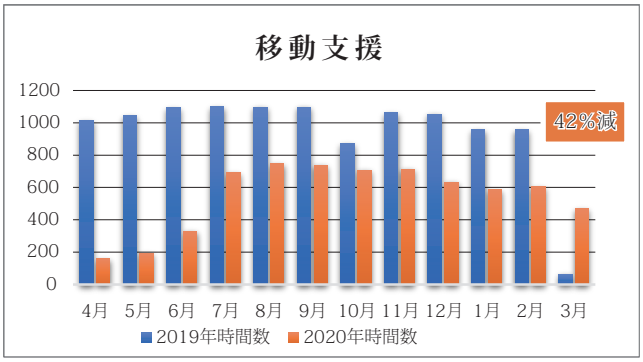
談の両方を担う事業所（とびら / くれよん）では、新規受け入れを求められますが、これ以上の受け入れは困難な状況にあります。特に青葉区（人口 31 万人）にある「とびら」は区役所や仙台市発達相談支援センターをはじめ、市内の相談支援事業所からのケース依頼も多く、相談員の担当ケース数は増加し続けています。そのため今年度は「とびら」から「くれよん」へ法人内事業所間でのケース移管を積極的に行いました。仙台市内の新規指定特定相談支援事業所数は増えていますが、廃止する事業所も多くあり、平成 29 年度 44 箇所だった事業所は、令和元年度は 41 箇所と数が減少しています。新規指定特定相談支援事業所へのフォローアップ体制の強化が喫緊の課題と思われます。相談支援事業においてもコロナ禍の影響は大きく、対面を伴う会議（サービス等担当者会議、モニタリング等）が開催できないことが多くあり、一部は電話で実施しました。

福祉有償運送事業

法人内では、ぴぼっと南光台（すてっぷ･はうす）1 箇所のみでの実施となっています。登録者数は 9 名で福祉有償運送に代わるサービスを利用することが難しいため、個別に対応しています。今年度の福祉有償運送事業の運行回数は 82 件とほぼ昨年度同様でした。年々、福祉有償運送事業実施事業所が減少していますので、今後の福祉有償運送事業等の移動サービスに関する検討も必要になると思われます。

共同生活援助事業

グループホームでは、現在入居者 24 名（男性 15 名、女性 9 名）が暮らしています。今年度はコロナ禍のためグループホーム内で過ごす時間が増え、それ故、入居者のストレスは多かったことと思います（現在もコロナ禍のため外出等の制限は継続中）。グループホームは共同生活のため利用者、職員ともに日々、マスク着用、手指消毒等の感染拡大防止に努めながらの支援となっています。コロナ禍がいつ終息するのか分からないため、入居者の方への説明も難しさがありました。そういったなかで入居者が少しでもグループホーム内での過ごしを楽しむことができるようにと店屋を開いたり、身体を動かしたりいろいろと工夫をしながら日々を過ごしました。年々入居者の加齢等により介護負担が増しています。今年度は介護負担軽減のために「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業費補助金」を活用し、入浴用リフト、ベッド用リフトを設置しました。今後も積極的に介護負担軽減のために機器等を活用していきたいと思います。



つどいの家実践発表会報告

令和２年 12 月 18 日､「つどいの家実践発表会」を開催しました。法人内全事業所をオンラインでつなぎ、約 200 名の職員が聴講。事業所紹介をはじめ、利用者さんに寄り添い支援している様子、地域とのつながり、支援者の一日、ケア会議の事例、業務整理の成果など、事業所の特色を生かし、その内容は様々。利用者さんに丁寧に向き合う姿勢や各事業所のチームワークが感じられ、更には映像を駆使し感動的な表現に拍手が湧きました。オンラインのため離れた事業所に直接は届きませんが、気持ちは以心伝心していたと思います。コロナ禍により活動が制限され先の見えない不安、集うことのできない葛藤の中、１年間取り組んだ実践の成果を発表し合い、お互いを称え合う一体感を共有しました。初の試みとなる実践発表会は、職員の心を動かし有意義な時間となりました。

つどいの家は、誰もが住み慣れた地域で豊かに暮らせるよう、日々の支援に努めています。実践発表会の回を重ねながら、今後も支援力を高めて行きたいと思います。

ぴぼっと支倉管理者　佐藤 秋男

つどいの家全体職員研修「つどいの家実践発表会」 令和２年１２月１８日（金）

1．理事長挨拶（15:00～）
2．実践発表【各事業所から下記の順番で実践報告】（15:10～）

仙台つどいの家	「利用者主体の支援とはなんだろう？」
地域生活サポートセンター ぴぼっと南光台	「ぴぼっと南光台ってどんなところ？」
つどいの家・コペル	「事業所の問題と改善」
地域生活サポートセンターぴぼっと支倉	「ぴぼっと支倉を知る」
八木山つどいの家	「八木山つどいの家と地域の方との連携について」
地域生活サポートセンター ロボット若林 グループホーム	「自立への足がかり」 「グループホームの日々」
若林障害者福祉センター	「職員の動きを見直そう!!」
つどいの家・アプリ	「食について」

3．総括（17:55～）総務部長・地域生活支援事業部長

介護職員初任者研修報告とこれから　総務課リーダー　早坂智毅

人材不足や財務上の課題等に対応するため、2019 年度より事業化した介護職員初任者研修（通信）は、今年で 3 年目を迎えました。開講初年度は年 3 回実施し、18 名の方々に受講いただきましたが、昨年度（2020 年度）は、開催時期が一部新型コロナウィルスの緊急事態宣言と重なり応募者が集まらず、受講者は年間で 6 名に留まりました（外部受講者 4 名、職員受講者 2 名）。2 年間で 24 名の方々に受講いただきましたが、中には当法人での勤務を希望される方や、実際に雇用に結びついた方もおり、少しずつですが人材の確保にもつながっております。

さて、令和 3 年度の初任者研修がはじまりましが、今年度は長引くコロナ不況や、県内における（一時的な）感染者数減少等の影響からか、8・9 月開催の第 2 クールから急に問い合わせが増え初め、仙台市からは少し離れた角田市在住の方からも受講申込がありました。また今年度から土・日開講のコースを設定したところ、働きながら資格取得に挑戦する方等の問い合わせ、申込みも増えております。

新型コロナウィルスの感染拡大により依然として先行きは不透明であり、本研修にもしばらく影響を及ぼしそうですが、今後も人材の確保のみならず、一般市民等多くの方々にしょうがい分野に興味を持ってもらい、理解を深めてもらえるよう努めてまいりたいと思います。オンラインでの受講や、三密回避等コロナ対策も十分に行ない開催しております。詳しくは法人ホームページをご覧ください。

https://www.tsudoinoie.or.jp/

（お問合せ先 仙台つどいの家 022-293-3751 担当　早坂）

法人採用チーム活動報告　総務課主任　小林龍之

【○○福祉施設でクラスター】【コロナ禍で差別的な扱いを受けるエッセンシャルワーカー】

このような報道を見るたび、採用活動に影響が出てしまわないか、危惧しながら過ごす毎日でした。

また 2022 年卒マイナビ大学生業界イメージ調査ではいつも心が沈むような回答結果を目にします。

【業界を 40 分類してアンケート集計】

各業界のプラスイメージ

項目	1位	2位	3位	福祉系
社会貢献 環境への取り組み	食品・農林・水産	電力・ガス・エネルギー	繊維・化学・ゴム等	11位
人の役に立つ	介護・福祉サービス	教　育	医療・調剤薬局	1位
仕事の魅力	広告・芸能	放送・新聞・出版	ゲームソフト	40位

各業界のマイナスイメージ

項目	1位	2位	3位	福祉系
給与・待遇	介護・福祉サービス	アパレル・服飾関係	教　育	1位
休日・休暇・労働時間	介護・福祉サービス	広告・芸能	建設・設備工事	1位
定着率	介護・福祉サービス	人財サービス	建設・設備工事	1位

このアンケート結果から「介護・福祉サービスは人の役に立つ業種だと思うが、仕事としての魅力は感じていない。」その要因として、福祉業界は、どの業界よりも働く環境（給与・待遇・休日・休暇・労働時間・定着率）について悪い印象を持たれていることが影響していると捉えられます。

どの業界も仕事は苦労もありますが、それを上回る魅力が福祉業界にもあると思います。働く環境については先のアンケートのマイナスイメージのような所もあれば、積極的に環境整備を進めている社会福祉法人や事業所もあります。

当法人は 2018 年度にユースエール認定企業に認定されました。この制度は中小企業を対象とした厚労省の認定制度で 12 の基準を満たす必要があります。この基準の中には休暇や労働時間、定着率に関する項目が設けられています。宮城県には 6 万件を超える中小企業がありますが、この認定を受けている法人は 13 法人のみで、福祉業界では当法人だけです。

当法人では、2018 年度より 3 年間認定更新をしていますが、基準を一つでも満たせなかった場合は更新することが出来ません。特に、新卒等の 3 年間採用・定着率については離職率が 20％を下回る必要があります。（参考：2020 年　全業界の大卒者の卒後 3 年離職率は平均 32.8％。新規学卒者の福祉、医療の卒後 3 年離職率は平均 47％）

福祉業界に希望を持ち、当法人に入職した学生が、やりがいをもって長く働けるよう、あらゆる制度を見直しながら働きやすい環境作りに取り組んでいます。入職した職員は「利用者さんとの関わりで笑顔をもらえることがうれしい。」、「支援の中で利用者さんの活動の幅が広がることにやりがいを感じる。」など、日々喜びを感じながら働いています。また、利用者さんのご家族との関わりや地域の皆さまとのふれあいも職員の活力・支えとなり、やりがいにつながります。今後とも、変わらぬお力添えをよろしくお願いいたします。

…ご存知でしょうか？
ユースエール認定企業

地域における公益的な取組みと今後の展開

つどいの家では地域の皆さんとの交流の機会をとても大切にしております。全事業所、コロナ禍で活動が制限される中でも柔軟な発想で地域の中での役割を担っていきたいと考えています。

その中で、八木山つどいの家とつどいの家コペルの活動をご紹介いたします。

八木山つどいの家

八木山地域ではまだ行なっていない「こども食堂」等への取り組みを準備し、令和３年度よりヤギヌマローカルリソース様と共に実施する運びとなりました。

その他、従来対面で行っていた東北工業大学様での「ゲストスピーチ」をオンラインで行い利用者さんの生活の様子や生の声を離れた場所からもお伝えする事が出来ました。コロナ禍で、昨年度は実施が難しいと思われましたが、東北工業大学様では仙台市内でも早くから WEB 授業を取り入れており協力が得られました。

また、地域と共に学ぶ機会を創出する「手つ学カフェ」（地域と共に学ぶカフェ）や各種コンサートを開催しております。

一日も早く安心して皆様と【喫茶やまかぜのベンチ】でお茶を片手にお目にかかれる日が来ることを楽しみにしております。

つどいの家・コペル

「フードバンク」とは…賞味期限内でまだ安全に食べられるにも関わらず、処分されてしまう食品を企業や個人から提供していただき、食の支援を必要としている方に配ることで、自立や生活支援を図る活動の一つです。

コペルでは令和２年９月から「フードボックス」を設置し、多くの方から沢山の食料品を寄付していただきました。

令和３年度はボックスの設置だけではなく、仙台市内のイオン様（仙台店・仙台幸町店・イオンスタイル仙台卸町・仙台富沢店・仙台中山店）やヤマザワ様（住吉台店、中田店）に設置されているフードボックスをフードバンク仙台様へ運ぶ「フードドライブ」を実施します。最近ではコロナ禍の影響もあり、買いだめしたけれど消費し切れないという事があるようです。食の支援を必要としている方がいる一方で余らせてしまい捨ててしまう方が多くいる事は国際的な問題となっております。

この活動を通じて利用者さん自身が生活困窮者支援の循環に加わり、生き生きと自分の役割を果たし、ひとりでも多くの方へ食材を届けられたらと思います。

今後も食料品提供のご協力をお願いいたします！

しょうがい福祉ネット仙台様からご寄贈いただきました

ＮＰＯ法人しょうがい福祉ネット仙台様は、「しょうがいのある人や、高齢者及びその家族が地域のなかで生き生きと安心して暮らせる福祉サービスの充実を目指しご尽力された福祉団体様です。当法人も同じ志しのもと、連携して活動させて頂きました。大変残念ですが、会員数の減少と会員の高齢化による活動力低下などの理由により解散・清算を余儀なくされました。この度大変大切な残余財産をご寄贈いただきました。

当法人への会員の思いをしっかりと引き継いで参ります。本当にありがとうございました。

（2021 年５月　1,742,789 円ご寄贈）

令和２年度
寄付者ご芳名

（令和２年４月１日～令和３年３月31日）

沢山の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

赤井澤　勝子　様
赤井澤　功子　様
浅野　弘毅　様
東　せつこ　様
安海　美香　様
（株）アトマックス　様
阿部　ちあき　様
阿部　敏行　様
阿部　幸生　様
阿部　悠紀子　様
天野　清子　様
アルト　代表　古高　享　様
（株）アルファス計装　様
粟野　広　様
安藤　冷子　様
飯田　達夫　様
板垣　正人　様
今井　澄夫　様
岩佐　加奈子　様
牛袋　昭宣　様
大内　恭子　様
大越　裕光　様
大谷津　敏　様
大山　延江　様
緒方　圭子　様
加藤　幸子　様
上遠野　千秋　様
川股　ちぐさ　様
古高　美奈　様
小寺　礼子　様
後藤　一郎　様
後藤　啓二　様
後藤　富男　様

小室　正人　様
齊藤　重光　様
斎藤　進　様
斎　益生　様
佐々木　眞一　様
佐藤　篤　様
佐藤　清　様
佐藤　功一　様
佐藤　正司　様
佐藤　時子　様
佐藤　浩子　様
佐藤　宏美　様
佐藤　ゆき子　様
佐藤　由美子　様
佐藤　吉久　様
さんしょ 親の会　様
（有）サンシン自動車　様
志村　鎮　様
下郡山　和子　様
下郡山　琢　様
下郡山　徹一　様
（株）庄子専助商店　様
庄司　孝志　様
庄子　博　様
新港機工（株）　様
菅井　裕行　様
菅井　裕子　様
関口　睦子　様
相馬　智子　様
髙嶋　邦明　様
髙橋　浩也　様
髙橋　伸　様
髙橋　秀昭　様

田中　直樹　様
谷川　宏治　様
千葉　孝義　様
槻田　よしえ　様
寺島　英弥　様
同事建設（株）　様
根本　晋一　様
（株）ハート総合企画　様
（一財）白石庵敬神会　様
橋本　智　様
早川　實　様
早坂　栄二　様
早坂　美和子　様
樋口　晟子　様
平間　眞澄　様
福地　眞　様
藤岡　正行　様
ブルームビルド（株）　様
星　幾代　様
星　仁　様
細矢　直子　様
堀口　正博　様
三浦　重夫　様
皆川　信子　様
皆川　泰隆　様
未来 ING　様
村上　理香　様
明光ビルサービス（株）　様
門眞　咲枝　様
山内　房生　様
山口　収　様
リックス工業（株）　様
匿名希望者　85 名様

イオンスーパーセンター（株）　鈎取店　様
イオン東北（株）イオンスタイル仙台卸町　様
イオン東北（株）イオン 仙台幸町店　様
株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー　様
NTT 東京・山梨グループ社会福祉を進める会　様
株式会社 NTT 東日本サービス　様
株式会社 NTT 東日本－南関東　様
株式会社 NTT ビジネスアソシエ東日本　様
（一社）仙台建設業協会　様
仙台つどいの家　親の会　様
仙台つどいの家 職員の会　様
仙台つどいの家　保護者会　様
つどいの家・アプリ　保護者会　様
つどいの家後援会　様
つどいの家・コペル　保護者会　様

つどいの家　連合保護者会　様
テルウェル東日本株式会社　様
（社福）聖坂学園 オリブ工房　様
宮城県知的障害者福祉協会　様
（一社）みやぎ中小建設業協会　様
八木山つどいの家　保護者会　様

総計 204 名様　21,494,317 円

《寄付者芳名の掲載について》
・匿名を希望された方及び掲載可否の不明な方は匿名とさせていただきましたので、何卒ご了承ください。

法人ホームページご案内

法人事業所の事業内容やこれまでのあゆみ、採用情報等を掲載しています。また、事業所毎に日々の日中活動の様子をブログで紹介していますので、利用者のあふれる笑顔を是非ご覧ください。

「ご寄附・ご支援のお願い」のページからはクレジットカード決済による寄付もご利用いただけます。

https://www.tsudoinoie.or.jp/

社会福祉法人つどいの家　検索